

キュロス円筒碑文

1. 天地のすべてを統べる王、マルドゥク、彼の・・・において、彼の・・・を荒廃させる
2.知能において幅広く？、世界の隅々を査閲される.....
3.彼の最初の子（ベルシャザール）、卑しい人物、が彼の国土の運営を任されたが、
4. しかし.....彼は彼らに偽物を用意したのだ。
5. 彼は **Esagil** の偽物を作り、（そして.....） **Ur** やその他の宗教都市の為に.....。
6. それらに相応しくない儀式や、（不純な）食物の奉納.....に無礼な.....が日々語られ続け、辱めのごとく、
7. 彼は日々の奉納を中断し、そのような儀式によって妨害し、聖域の中に.....を設けたのである。心の中で、神々の王、マルドゥクの厳かな恐れ念が消え失せてしまっていた。
8. 彼はさらに悪しき行いを自らの都市に日々行い、.....彼の（民は.....）、救いのない頸木で彼らすべてに破滅をもたらしたのだ。
9. 神々の **Enlil** は彼らの不満と、彼らの国土（.....）に大いに怒られるようになった。彼らの間に住まいしておられた神々は彼らの神殿を後にされたのだ、
10. 彼が（彼らを） **Shuanna**（バビロン）に納めさせたことに怒られて。神々の **Enlil**、賛（美）されるべきマルドゥクは同情された。その神域が荒廃していたすべての居住地と、
11. 死骸のごとく成り変わっていたシュメールとアッカドの地の民について御心を変えられ、彼らに同情されたのだ。彼はすべての国々を調べられ確かめられたのである、
12. 彼のめがねにかなった正しい王を求めて。彼は **Anshan** の王キュロスの手を取り、彼に万物に対する王権をはっきりと宣言して、彼の名前で彼を呼んだのであった。
13. 彼は **Guti** の地とすべてのメディアの兵士らをその足元にひれ伏させ、その間に自らの支配下に置いた黒髪民を正しく公正に導いたのである。
14. 偉大なる長、その民を育まれるマルドゥクは喜びをもって彼の素晴らしい行いと真心を見られ、
15. 彼がバビロンに赴く王に命じられたのである。彼は **Tintir**（バビロン）への道を彼に取らせられ、友や仲間のように、彼の傍らを歩かれたのだ。
16. その数は、川の水のごとく、数えることのできない彼の大部隊は彼の傍らを完全武装して行軍したのである。
17. 彼は彼を戦うことなく真っ直ぐに **Shuanna** に入城させ、自らの町バビロンを苦痛から救われたのである。彼は彼を恐れなかった王、ナボニドスを彼に手渡された。
18. **Tintir** の、全シュメールとアッカドのすべての民、貴族や知事たちは、彼の前にひれ伏して、彼の足に口づけをし、彼の王権を喜び彼らの顔は輝いていた。
19. その助けを通して万人が死から救われた彼らすべてを悩みと苦しみから救い出した主を、彼らは心地よく感謝し彼の名を褒め称えたのである。
20. 余は、世界の王、偉大な王、力強い王、バビロンの王、シュメールとアッカドの王、四方世界の王、キュロスなり、
21. 偉大な王、**Anshan** の町の王であるカンビュセスの息子にして、偉大な王、**Amshan** の（町の）王であるキュロスの孫にして、偉大な王、**Anshan** の町の王であるテイスペスの子孫にして、
22. 絶えること無き王権の種、その支配をバール（マルドゥク）とナブは愛され、その王権に味方して、彼らの喜びの種であるが、彼ら自身が気に掛けておられるのだ。余が平和の先触れとしてバビロン（に）入った時、
23. 余は祝賀のただ中に王宮のうちに余の君主としての住まいを建て喜ばれる、偉大な主、マルドゥクは余の運命としてバビロンを愛する者の大いなる寛大さを余に授けられ、それで余は日々畏敬の念を抱

いて彼を窺うのであった。

24. 余の大部隊はバビロン市内を平和裏に行進し、(シュメール) とアッカドの全土が恐れるべきものは何もなかった。
25. 余はバビロンの町とそのすべての神域の安全を求めた。バビロンの住民に関しては(・・・)、神(のご意思)がなかったのかのように彼らに命じられてもいない頸木に耐えて来たのだ。
26. 余は彼らの疲弊を和らげ、彼らの鎖から彼らを解放したのだ。偉大な主、マルドゥクは(余の良き)行いに喜ばれ、
27. それで彼は余、キュロス、彼を恐れる王、並びにカンビュセス、余の嫡出子、及び余のすべての兵士らに甘い祝福の言葉を述べられたのである、
28. 我らが彼の居られるところで幸福に、そして豊かに暮らしていくようにと。彼の喜びに満ちた命令によって、玉座に就いていたすべての王が、
29. 世界の隅々から、上の海から下の海まで、(遠く離れた地) 域に住む者たち(や) テントに住まいする Amurru の王たち、彼らすべてが、
30. 重い貢物を Shuanna に持ち込み、余の足に口づけをしたのであった。(Shuanna) から余は彼らの町へ、Ashur の町や Susa、
31. アッカド、Eshnunna の地、Zamban の町、Meturnu の町、Der、グチの国境まで、ティグリス川の川向うにある様々な神域に、その神殿は以前は荒廃させられていたが、
32. それらの地に住まいしていた神々、そして彼らのための神域を永遠のものとした。余は彼らの民のすべてを集め彼らをその町に戻したのであった、
33. ナボニドスが、神々の主の激しい怒りとなった、Shuanna に持ち込んだシュメールとアッカドの神々を、偉大な主、マルドゥクの命に従って、
34. 余は彼らを幸せにする神域の中に、彼らの神室に無傷なまま返したのであった。願わくは余が彼らの神域に戻したすべての神々が、
35. 日々ベールとナブの前で余の長き命を乞い求め、余の良き行いを口にし、わが主、マルドゥクに次のように述べますように。「あなたを恐れる王キュロスと、彼の息子カンビュセスが、
36. 遠い未来に至るまで我らの神殿の奉納者でありますように、またバビロンの民が余の王権に祝福を述べますように。余はすべての地が平和に暮らせるのを可能にしたのだから。」

37. 日々余はガチョウやアヒル、ハトの奉納を(・・・羽のガチョウ、2羽のアヒル、それに10羽のハト)によって増やした。
38. 余はバビロンの大城壁、Imgur-Enlil の城壁の防御を強化しようと骨を折ったし、
39. 前の王が建設したがその作業を完成しなかった堀の堤の焼煉瓦で出来た波止場を(完成したのだ)。
40. (余・・・都市の外側を囲むことの無かった)、かつてのいかなる王も建設してこなかった、(・・・)彼の労働者集団を、(彼の地から) Shuanna (へと) 船着場(・・・)。
41. (・・・瀝) 青と焼煉瓦によって余は新たに建設し、その(仕事を完成したのだ)。
42. (・・・) 青銅に包まれた(杉材でつくられた)大きな扉(・・・)、
43. (そして余は) それらすべての扉、敷居の平板と銅製の部品を伴う扉取付け具を(取り付けたのである)。(・・・)。余はその中に、余よりも以前の王、アッシュールパニパルの碑文を見たのである。
44. そこに(・・・)。願わくは我が主、マルドゥクが余に贈り物として長き命と十分な齢、
45. (ゆるぎなき王位と永遠に続く支) 配を贈られますよう、(そして願わくは余が) あなたの心の(中に) 永遠に(・・・)。
 - a. (・・・から) 書かれ校閲された。(この) 粘土板は
 - b. (・・・) の子、Qishti-Marduk (のもの)